

## 第66回ボランティア広場

データが語る！「コミュニティとつながりの重要性」

1. 日 時：令和2年10月10日（土）14時～16時
2. 場 所：かわぐち市民パートナーズステーション会議室1～3
3. 講 師：NPO法人CRファクトリー  
コミュニティマネジメント認定インストラクター  
沼田 翔二郎
4. 参加者数：25名（団体所属 16名、一般市民 9名）

### 5. 要 旨

今回は仲間づくりのための実践的な内容ではなく、日本の社会問題についてコミュニティと関連付けながらお話をさせていただき、「コミュニティ」や「つながり」といったものの重要性を確認する時間にしたいと思う。「コミュニティ」や「つながり」というものは、実態がなく目に見えないものであるが、この30年くらいで数値化され目に見えるものになってきた。この目に見えるようになったデータと日本の社会問題と関連付けながら、「コミュニティ」や「つながり」というものを考えていきたい。また、普段の日常生活にも当てはまることなので、実感できるものが多いのではないかと思う。

日本の社会問題は資料1ページのとおり自殺者が2万人、孤独死が3万人、ニートが57万人、うつ病が120万人など多くの問題があるが、いくつかピックアップして見ていきたい。自殺者については、ここ数年は年間2万人台で推移しているが、少し前までは年間3万人台を記録していた時代があった。日本における自殺が大きな社会問題になっている理由は、日本の自殺率が世界的に見ても非常に高いためである。うつ病・躁うつ病の患者数が年間120万人となっており、現在は5人に1人が心の病になると言われており、増加傾向になっている。児童虐待数に関する相談対応件数が年間13万件となっており、平成2年の年間1万件から激増している。相談件数なので実際に虐待があった場合の相談・通報だけでなく、子供の泣き声が聞こえた時に虐待を心配した隣人が相談・通報するといったケースも多い。昔は誰の子供であるかなどが周辺住民はみんな分かっていたが、現代では隣人すら誰が住んでいるか知らないというケースも珍しくなく、子供の泣き声に対して敏感になってきている。これは早期発見に繋がっているという見方もできるが、他方でつながりの希薄化によって地域社会が子どもの虐待を解決できなくなっているという見方もできる。近年は孤独死が注目を集めているが、約43%の人が孤独死を「身近な問題と感じている」と回答している。いくつかの問題を取り上げたが、これらは経済的に恵まれているとされている日本で起きているものであり、それらの多くが増加傾向の状況である。

次に、人と人とのつながり、「コミュニティ」について見ていきたい。

戦後の日本社会は農村から都市への大規模な人口移動が発生し、中心となるコミュニティが親戚を含めた近隣住民から構成される農村共同体から会社へと変わり、家族の形態も農村共同体では祖父母から孫まで3世代が同じ家に住んでいることも珍しくはなかったが、都市への人口大移動により核家族が中心となった。そして、現代では、資料8ページのグラフのとおり親戚、職場、地域の関係の希薄化が進んでいることが分かる。家族についても依然として核家族世帯が主流だが、生涯未婚率及び離婚率の上昇などにより2010年からは単独世帯が最も多い家族形態となっており、家族を作れない、維持できないという傾向が出てきている。

かつて、人々は何かしらのコミュニティに強く拘束される反面、自分の居場所があったり、頼れる人がいたが、現在はそれがなくなってきており、拘束をされずに自由な選択をできる機会が増えた半面、個人の孤立を生み自殺や孤独死などの問題にも繋がっている。

先ほど実際に団体で活動されている方から、かつては生ごみの問題に取り組んでいたが、ある程度目標が達成されたので、次は別の目標を設定してつながりを維持しているという発言があった。これは非常に良い流れであると思う。活動されている方々は非金銭的報酬を得ており、それがやりがいとなっている。興味がある問題の解決に向けて活動できること、自分の成長を感じられること、自分のスキルを社会貢献に使うことができること、新たなつながりを増やせることなど様々なものが非金銭的報酬となる。人が定着する居心地が良い組織とは、リーダーが非金銭的報酬をメンバーにいかにか支払うことができるかが重要なポイントとなる。そのためには、それぞれのメンバーが求めている非金銭的報酬は何かを考えることが大切である。また、情報共有も大切な要素であり、団体内での連絡不足やその場にいなかった人には伝わっていないなどの情報格差は、つながり格差となり、居心地の悪さや参加のしづらさに繋がる。また、団体、自治会などコミュニティは様々な場所にあり、構成員も日本人に限らず外国人も含まれるなど形も様々であるが、どのコミュニティでも名前を呼んで挨拶することも大切であると考えている。

最近では、社会・地域における人々の信頼関係や結びつきを表す「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）」の概念に関心が高まっている。このソーシャル・キャピタルが蓄積された社会では、相互の信頼があるため、他者への警戒が少なく、協力関係が生まれ、治安、経済、教育、健康、幸福感などに良い影響があることが、資料18ページから23ページに記載されているとおり、様々な研究で明らかになっている。

活動されている皆さんは人々の幸福のために頑張っていると思うが、今回の講義でお話したとおり、団体というコミュニティはつながり生み出し、活動している皆さん自身の幸福にもつながっている。

